

20代後半～30代男性450人に見る

理想の夫婦像と家事分担

「年齢別にみた男性の意識と行動' 92」より

1993 9/22

ポーラ文化研究所

担当:高谷、村澤

はじめに

結婚以前に、一人の社会人、あるいは男性として結婚相手のことは一通り理解していたつもりが、いざ結婚して生活をはじめてみると、思わぬ一面、あるいは本性を発見することになる。それが必ずしも良いことばかりとは限らない。固く約束していたはずの掃除や洗濯など家事分担がまもられないということもよく聞く。口では「ヤル」といっていても現実の家事を頭の中でしか把握していない男性が、その体験不足と仕事の忙しさを理由に、結局は何もしないということに落ち着くためだろうか。

そこで、昨年調査の、『年齢別に見た男性の意識と行動』の調査対象者の中から20代後半および30代の男性を未既婚別に分けて、夫婦像、家事分担などの質問の結果から未既婚別の男性の意識違いと行動の変化を探ってみた。

なお次回は『年齢別にみた女性の意識と行動 '93』の結果を加えて女性との異同、意識の違いについてレポートをまとめる予定である。

*次頁より使用するグラフの数字は、小数点第一位を四捨五入したもの

『年齢別にみた男性の意識と行動 '92』

調査概要

調査地域:首都圏30キロ圏内

調査対象者:16から65歳までの男性1050人

調査方法:戸別訪問面接聴取法および留置法

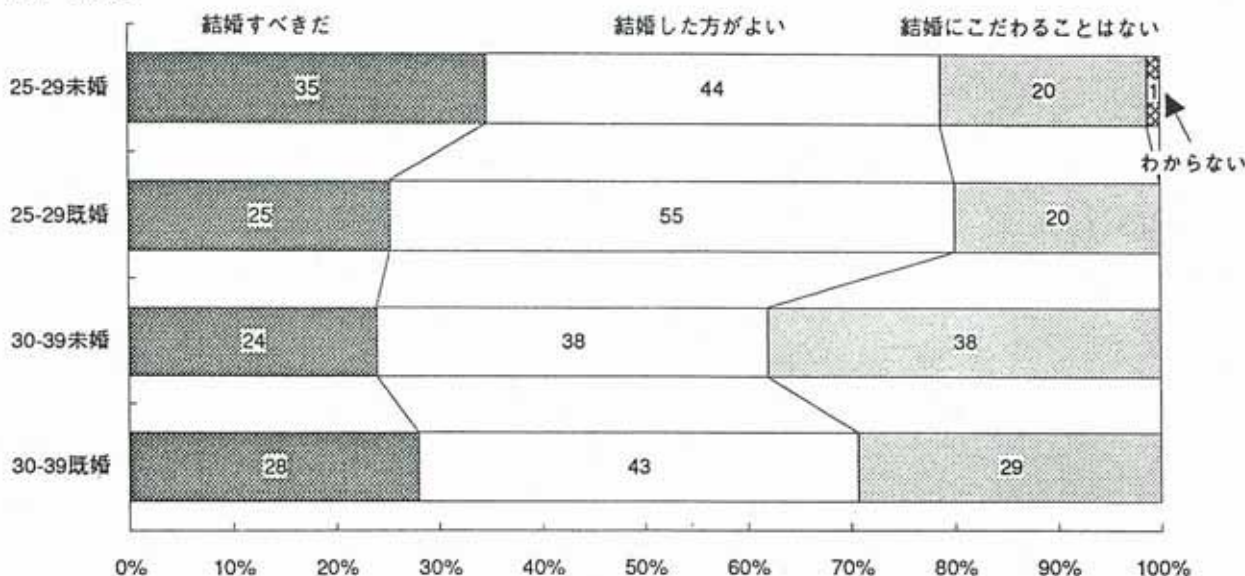
調査期間:1992年6月19日～7月10日

対象者年齢区分

| | | | |
|--------------|----|-------------|------|
| 高校生 | 75 | 30-39歳 (未婚) | 150 |
| 19-24歳 (大学生) | 75 | 30-39歳 (既婚) | 150 |
| 19-24歳 (社会人) | 75 | 42-45歳 | 100 |
| 25-29歳 (未婚) | 75 | 46-49歳 | 100 |
| 25-29歳 (既婚) | 75 | 50-59歳 | 100 |
| | | 60-65歳 | 75 人 |

○「結婚すること」についてのこだわり

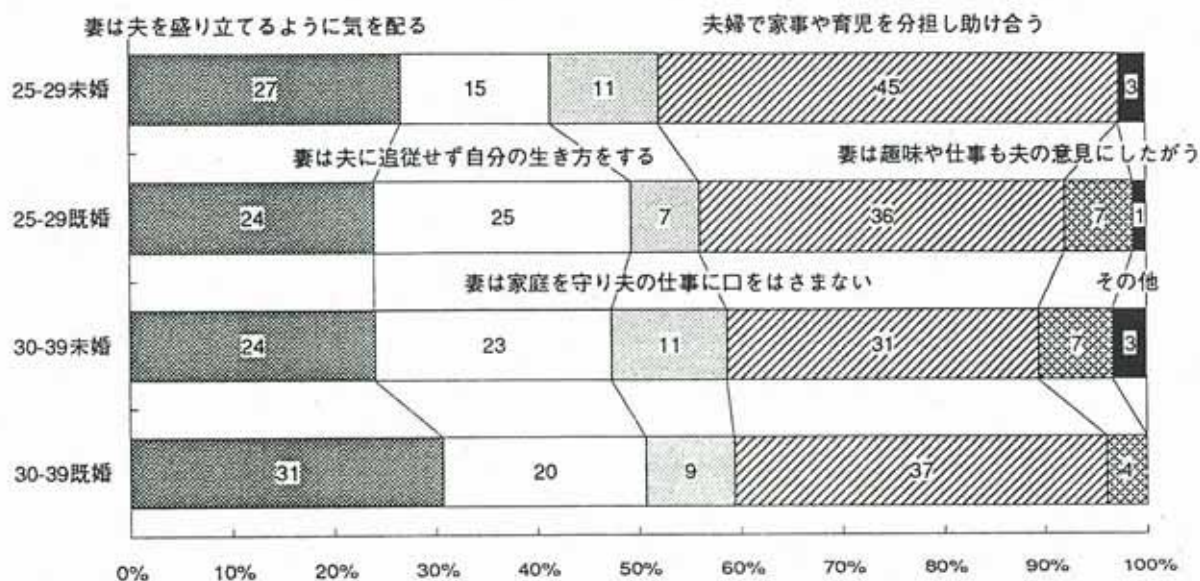
「結婚すべきだ」「結婚した方がよい」を合わせた結婚肯定派は各層を通じて6割以上と比較的高い。最もこだわっているのが〈25～29歳既婚〉の80%、〈25～29歳未婚〉の79%。ついで〈30～39歳既婚〉71%、〈30～39歳未婚〉は62%と最も低い。逆に「結婚にこだわることはない」人が最も多いのは〈30～39歳未婚〉38%。「結婚などしない方がよい」を選択した人はいなかった。



○「最も好ましい夫婦像」

「夫婦で家事や育児を分担し助け合う」に注目してみると、〈25～29歳未婚〉の45%。ついで、〈30～39歳既婚〉37%、〈25～29歳既婚〉36%と既婚者が続き、〈30～39歳未婚〉は最も低い31%。にもかかわらず「最も好ましい夫婦像」として3割以上が家事育児の分担を意識している結果となった。

20代後半で差が大きいのは「妻は夫に追従せず自分の生き方をする」で〈25～29歳未婚〉の15%が〈25～29歳既婚〉では25%になる。この「妻の生き方を尊重する」姿勢が、女性に受け入れたようにも思えてくる。逆に〈25～29歳未婚〉で全くいなかった「妻は趣味や仕事も夫の意見に従う」も7%の回答を得ている。

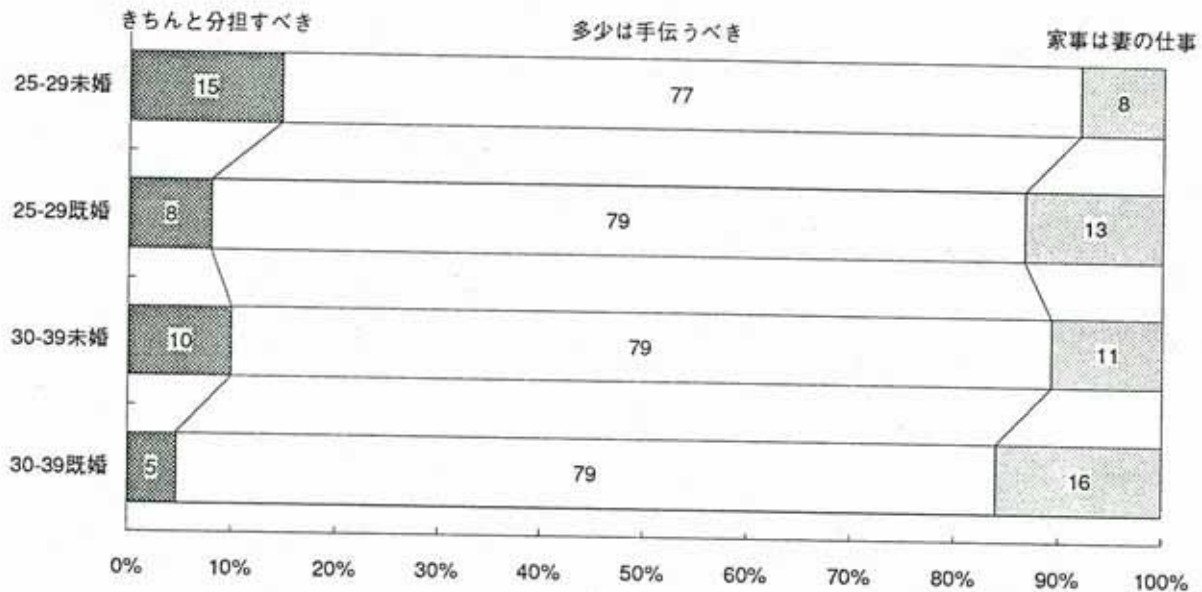


○家事分担

前ページの《最も好ましい夫婦像》で30%以上いたはずの「家事分担派」だが、実際にはどの程度の分担を覚悟しているのだろうか。

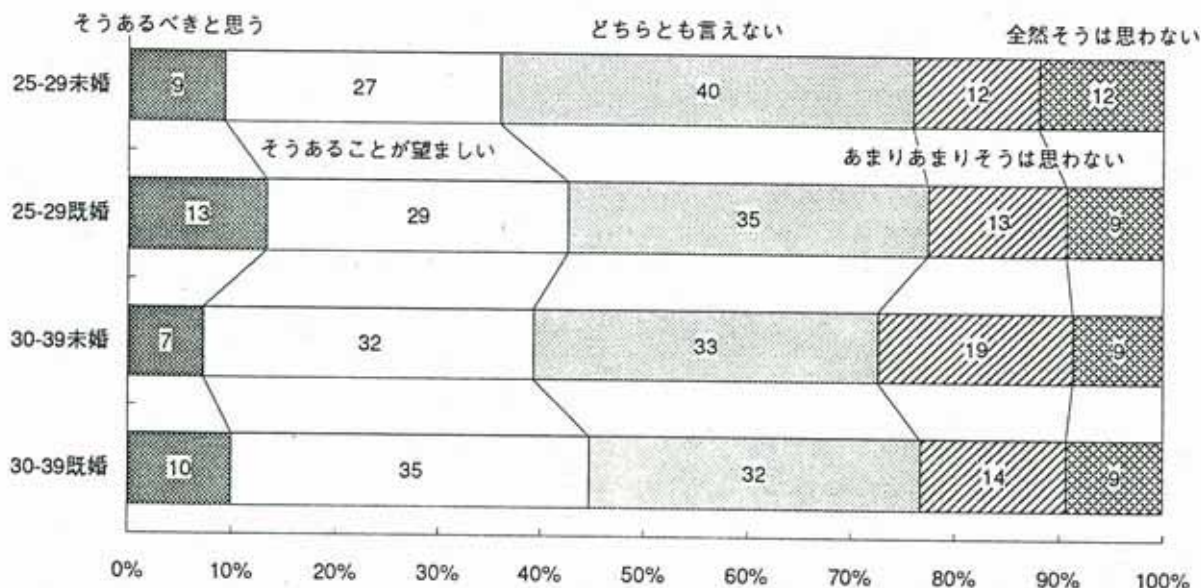
圧倒的に多いのは、「多少は手伝うべき」ではほぼ8割にもなる。

さらに、〈25～29歳未婚〉で15%いた「きちんと分担すべき」が、〈25～29歳既婚〉では8%に減少し、〈30～39歳未婚〉で10%いた「きちんと分担すべき」が、〈30～39歳既婚〉では5%と半減する。その分かどうか〈25～29歳既婚〉〈30～39歳既婚〉ともに未婚と比べ「家事は妻の仕事」がきっちりと増えている。



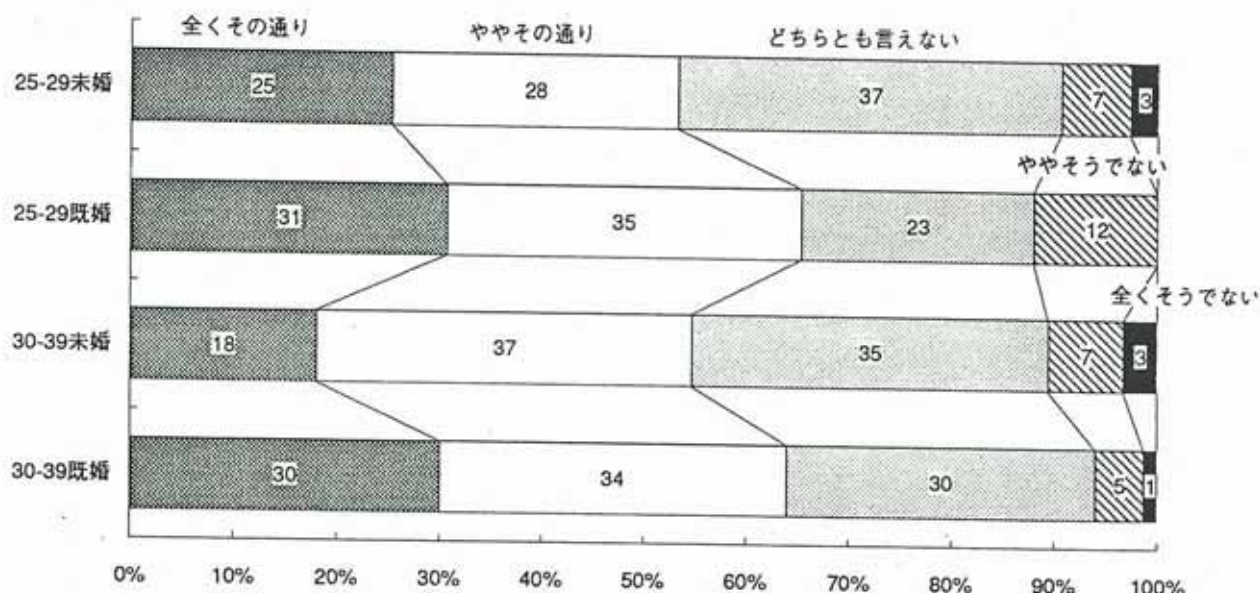
○「男は仕事、女は家庭」について

「そうあるべきだと思う」と「そうあることが望ましい」を合わせた肯定派は〈25～29歳未婚〉が36%、〈30～39歳未婚〉が39%となる。では既婚ではどうだろう。〈25～29歳既婚〉が42%と6%の増加、〈30～39歳既婚〉が45%と同じく6%増加する。



○「妻は家事より仕事を優先すべきでない」

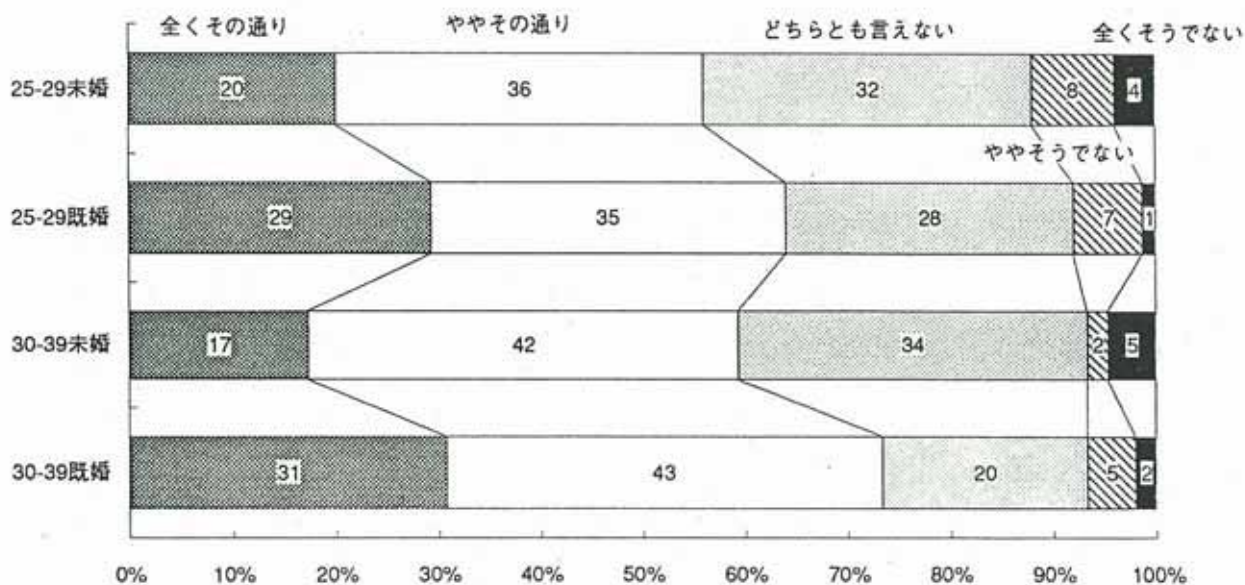
「全くそのとおり」、「ややそのとおり」を合わせた「肯定派」は〈25～29歳未婚〉が53%、〈30～39歳未婚〉で55%とほぼ半数。一方、〈25～29歳既婚〉が66%、〈30～39歳既婚〉は64%と高く、未既婚の差は約10%。



○「妻は夫より早く帰宅するのが望ましい」

「全くそのとおり」、「ややそのとおり」を合わせた「肯定派」、〈25～29歳未婚〉が56%、〈30～39歳未婚〉で59%。〈25～29歳既婚〉は64%、〈30～39歳既婚〉は74%と高い。

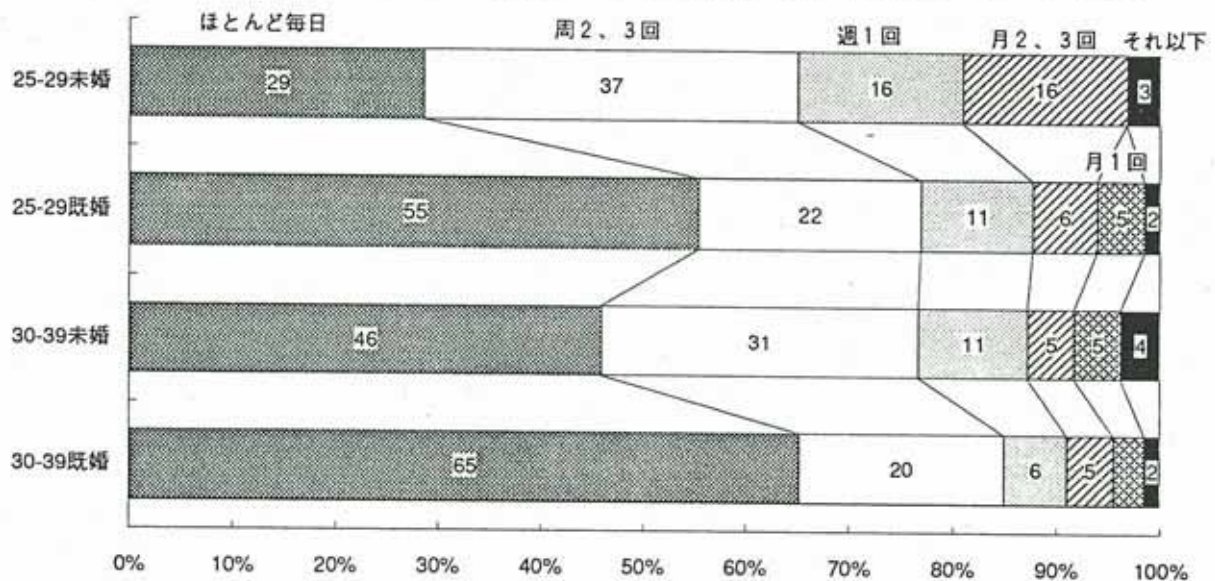
一方「全くそうでない」、「ややそうでない」を合わせた「否定派」は〈25～29歳未婚〉がもっとも高い12%、〈30～39歳既婚〉はもっとも低い7%。



○飲酒頻度

未既婚で比べると、既婚のほうが飲酒頻度はあきらかに高い。「ほとんど毎日」と答えた層をみると〈25～29歳未婚〉が29%、〈25～29歳既婚〉が55%と20%以上増える。〈30～39歳未婚〉は「ほとんど毎日」が46%、〈30～39歳既婚〉の65%と比べると低いが、「週2,3回」は〈30～39歳未婚〉の方が10%高い。※「飲む」と答えた人(450人中393人)のみへの質問

ここでは詳細は省くが、好きな酒の種類でも、既婚は「ビール」。一方、未婚は「ビール」が多い傾向は変わらないが、「ウイスキー」あるいは「その他」も既婚に比べて高く、外で飲む機会が多いことを示唆している。一方既婚は、飲酒頻度も高く晩酌型が多いようだ。

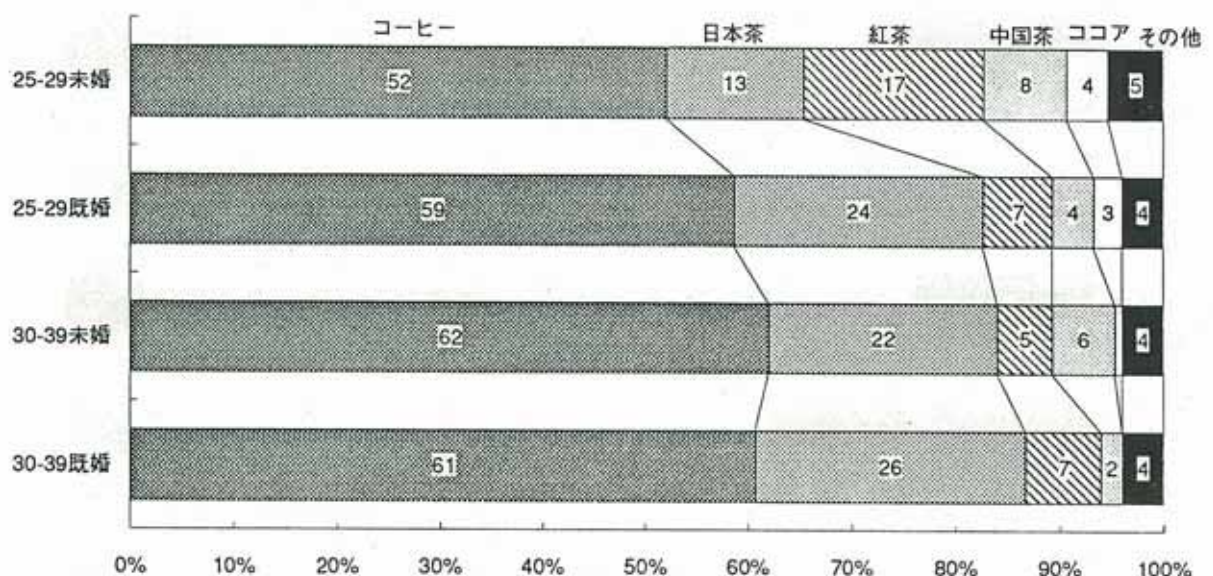


○好きな嗜好飲料

未既婚を問わずもっとも多いのは50～60%を占める「コーヒー」。

未既婚で差があるのは「日本茶」。特に〈25～29歳未婚〉13%に対し、〈25～29歳既婚〉は24%と差が大きい。

〈25～29歳未婚〉は「紅茶」17%、「中国茶」8%などバラエティに富んでいる。



○新聞の読み方、関心のある記事

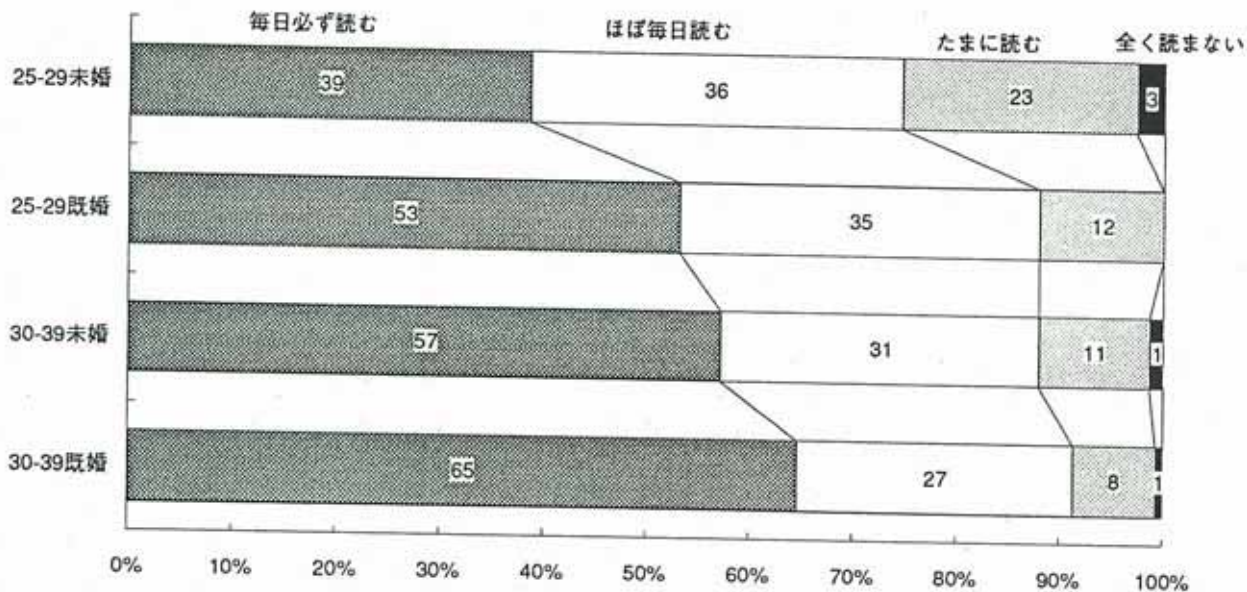
「毎日必ず読む」で未既婚の差が大きい。〈25～29歳未婚〉39%、〈25～29歳既婚〉53%、〈30～39歳未婚〉57%、〈30～39歳既婚〉65%と既婚の方がはつきりと高い。

「関心のある記事」から、未既婚で差が大きいものから5つ上げると

| | 経済 | 広告 | 社説 | 政治 | 株式 | |
|------------|----|----|----|----|----|---|
| 〈25～29歳未婚〉 | 31 | 20 | 16 | 40 | 7 | |
| 〈25～29歳既婚〉 | 45 | 7 | 25 | 48 | 13 | % |

| | TV欄 | 広告 | 経済 | 政治 | 映画・演劇 | |
|------------|-----|----|----|----|-------|---|
| 〈30～39歳未婚〉 | 61 | 12 | 37 | 63 | 17 | |
| 〈30～39歳既婚〉 | 49 | 23 | 46 | 55 | 9 | % |

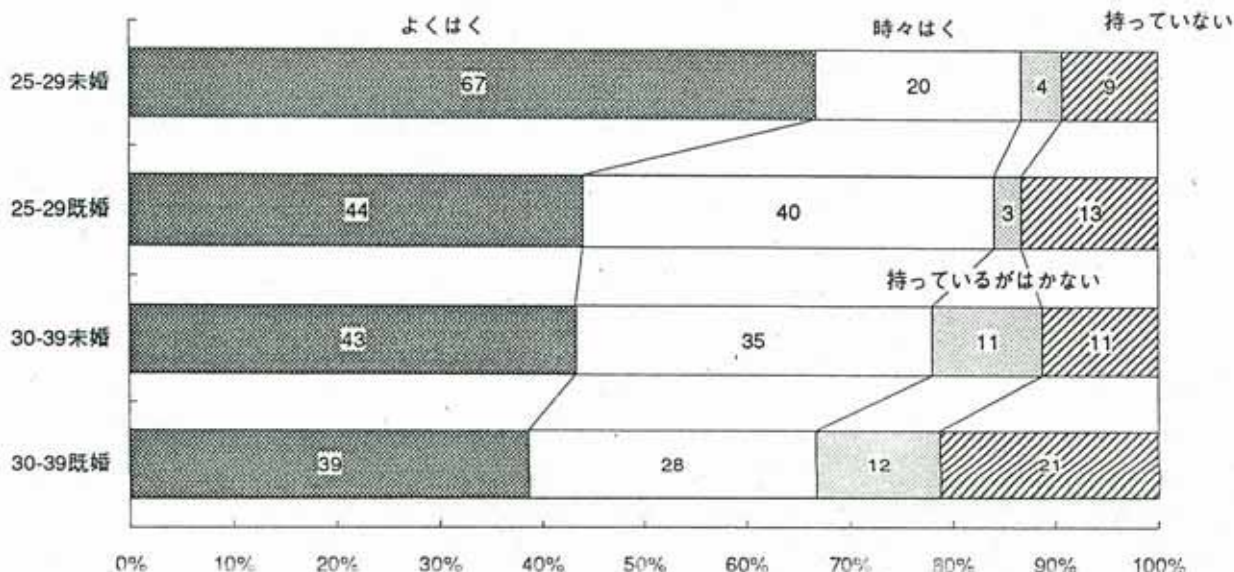
既婚者の方が、「政治」「経済」など「カタイ」記事でもよく読んでいる。
先ほどの晩酌とともに既婚者には新聞も欠かせないようだ。



○ジーンズの着用

未既婚での差が意外と高かったのがこの項目である。「よくはく」〈25～29歳未婚〉が67%、であるのに対して〈25～29歳既婚〉は44%とじつに23%も減ってしまう。さらに「時々はく」は20%も増えている。30代で比べてみても未婚の方がジーンズをよくはいている。

この意味を推理するのは難しいが、日本茶党、家での晩酌派の増加、新聞の読み方などと合わせて考えると、結婚後の男性の保守化、言ってしまうえばオジサン化の象徴と言える気がする。



まとめ

まずは、以下に各サンプルの特徴を上げる。

〈25～29歳未婚〉

| | |
|------------------------------|-----|
| 「結婚すべきだ」「結婚した方がよい」を合わせた結婚肯定派 | 80% |
| 「夫婦で家事や育児を分担し助け合う」のが理想の夫婦 | 45% |
| 家事は夫婦で「きちんと分担すべき」 | 15% |

〈25～29歳既婚〉

| | |
|------------------------------|-----|
| 「結婚すべきだ」「結婚した方がよい」を合わせた結婚肯定派 | 79% |
| 「妻は夫に追従せず自分の生き方をする」のが理想の夫婦 | 25% |
| 「妻は家事より仕事を優先すべきでない」の「肯定派」 | 66% |

〈30～39歳未婚〉

| | |
|-------------------------|-----|
| 「結婚にこだわることはない」 | 38% |
| 「夫婦で家事や育児を分担し助け合う」は最も低い | 31% |
| 家事は夫婦で「きちんと分担すべき」 | 10% |

〈30～39歳既婚〉

| | |
|---------------------------|-----|
| 「結婚にこだわることはない」 | 29% |
| 「夫婦で家事や育児を分担し助け合う」のが理想の夫婦 | 37% |
| 「妻は家事より仕事を優先すべきでない」の「肯定派」 | 64% |

〈25～29歳〉では未既婚を問わず結婚肯定派が多い。この年代の未婚の理想の夫婦は「家事育児を分担し助け合う」が45%と高く。家事を「きちんと分担すべき」も15%と比較的高い。

これが既婚では家事を「きちんと分担すべき」は8%となり、妻が仕事を優先するのにも最も厳しい。

一言でまとめれば、結婚前のかいがいしい男の姿をそのまま信じるのは、危険だということだろうか。

30代では、「結婚にこだわることがない」が未既婚ともに多いのが目立つ。

特に〈30～39歳未婚〉は「結婚した方がよい」と「結婚にこだわることはない」はともに38%と拮抗している。この「結婚にこだわることはない」は、果たしてあきらめか、居直りか？それとも20代の内からさほど気にならなかった男性が、未婚のまま30代を迎えたためだろうか。

また、家事の分担そのものではないが、好きな嗜好飲料では、未婚では少なかった「日本茶」が既婚では増えるのは、妻がいてくれるお茶をただ受け身で飲むという変化のためだろうか。

どの年代も家事は「多少は手伝うべき」が近く約8割と圧倒的であった。どうやら多少の中年が問題となってくるが、これには女性の側からの評価を知ることが欠かせない。

次回は『年齢別にみた女性の意識と行動 '93』の結果を加えて考察する。